

精神疾患とその治療

問題 1 精神疾患の診断分類と発症要因に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 統合失調症は、心因性精神障害に分類される。
- 2 双極性感情障害(躁うつ病)は、神経症の一類型と考えられる。
- 3 症状性精神障害とは、脳の器質の変化によって生じる精神障害をいう。
- 4 精神疾患の発症について、「脆弱性-ストレスモデル」が提唱されている。
- 5 DSM-5は、WHOが作成した診断基準である。

問題 2 うつ病に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 妄想を生じることがある。
- 2 興味や喜びの喪失がみられる。
- 3 確定診断には、脳波検査が必要である。
- 4 精神療法では、精神分析が最も有効である。
- 5 治療薬として、ベンゾジアゼピン系薬剤が第一選択である。

問題 3 統合失調症に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 幻覚をしばしば認める。
- 2 見当識障害がある。
- 3 意識障害がある。
- 4 血液検査で診断できる。
- 5 ICD-10によれば、F3群に分類される。

問題 4 状態像と症状に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 躁状態では、自分のものではない考えが勝手に浮かんでくる。
- 2 心気状態では、外界に対する現実感が喪失する。
- 3 恐怖状態では、特定の対象や状況へのおそれが生じる。
- 4 解離状態では、感情が平板化し活動性が低下する。
- 5 緊張病状態では、ある姿勢をさせるとその姿勢を保ち続けることがある。

問題 5 統合失調症のAさん(19歳、男性)は、外来受診の際に、「今朝、通りがかった犬がこちらを向いて前足を上げた。1億円の宝くじが当たった」と訴えた。

次のうち、Aさんの発言から考えられる症状として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 被害妄想
- 2 誇大妄想
- 3 妄想気分
- 4 妄想着想
- 5 妄想知覚

問題 6 次のうち、頭部CT検査の異常所見が診断に役立つ疾患として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 統合失調症
- 2 パニック障害
- 3 正常圧水頭症
- 4 身体表現性障害
- 5 双極性感情障害(躁うつ病)

問題 7 統合失調症に対する抗精神病薬による治療に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 幻覚・妄想より認知機能障害に有効である。
- 2 高齢者に対しては、若年者より投与量を増やす。
- 3 症状寛解後も長期にわたる服薬を要する。
- 4 薬剤選択に当たっては、糖尿病の合併を考慮する。
- 5 多剤併用を基本とする。

問題 8 心理教育に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 訓練を通じて、生活技能を向上させる。
- 2 認知のあり方に働きかけて、認知の歪みを修正させる。
- 3 自己暗示をかけることにより、緊張を緩和させる。
- 4 自由に浮かぶ考えを検討して、無意識の葛藤を洞察させる。
- 5 病気や障害の正しい知識を伝え、諸課題への対処法を習得させる。

問題 9 次のうち、「改正精神保健福祉法」において、医療保護入院を行うために精神保健指定医1名の診察による判定とともに必要な要件として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 患者本人の同意
- 2 保護者の同意
- 3 精神保健福祉士の判定
- 4 もう1名の精神保健指定医の診察による判定
- 5 家族等のうちいずれかの者の同意

(注) 「改正精神保健福祉法」とは、2013年(平成25年)に改正された「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の一部を改正する法律」のことである。

問題 10 次のうち、精神科病院において、精神保健指定医の判断を必須とする事項として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 患者の身体拘束
- 2 医療保護入院患者の退院
- 3 身体合併症治療時の食事制限
- 4 任意入院患者に対する開放処遇の制限の開始
- 5 医療保護入院患者の12時間を超えない隔離

精神保健の課題と支援

問題 11 次のうち、燃え尽き症候群(バーンアウトシンドローム)の主たる症状として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 情緒的消耗感, 脱人格化, 個人的達成感の低下
- 2 耐えがたい眠気, 情動性脱力発作, 睡眠麻痺
- 3 一過性の幻覚, 手指の震え, 精神運動興奮
- 4 フラッシュバック, 回避行動, 過覚醒
- 5 自尊心の肥大, 考えが次々浮かぶ, 精神運動性の焦燥

問題 12 「平成 26 年版自殺対策白書」(内閣府)による日本の自殺に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 自殺死亡率は、男性より女性が高い。
- 2 自殺死亡率は、アメリカよりも低い。
- 3 自殺者の半数が失業者である。
- 4 自殺者の原因・動機特定者のうち、およそ3分の2が原因・動機として健康問題を挙げている。
- 5 過去に自殺未遂歴がある自殺者数の割合は、女性より男性が高い。

問題 13 次のうち、女性よりも男性に多く認められるメンタルヘルスの問題として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 注意欠陥多動性障害
- 2 神経性大食症
- 3 アルツハイマー病
- 4 選択性緘黙^{かんもく}
- 5 うつ病

問題 14 メンタルヘルスをめぐる用語に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 レストレスレッグス症候群とは、ワーカホリックの男性が示す落ち着かない状態をいう。
- 2 レジリエンスとは、精神科における専門的な治療を行ってもなかなか症状が改善しない状態をいう。
- 3 ポピュレーションアプローチとは、健康障害の危険度が高い集団に、重点的に指導や支援を行うことをいう。
- 4 アタッチメントとは、過度な緊張とストレスのある環境に置かれた人が、日常と異なるパーソナリティや行動を示すことをいう。
- 5 メンタリングとは、経験豊かな年長者が若年者と交流し、対話や助言によって自発的な成長を支援することをいう。

問題 15 「文部科学省の調査」による、全国でみた高等学校生徒の長期欠席と中途退学に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 平成 21 年度以降、長期欠席者の割合は急激に減りつつある。
- 2 不登校生徒には、病気で登校できない状況にある者を含んでいる。
- 3 不登校生徒のうち、中途退学者は 10 % 以下である。
- 4 東日本大震災以降、中途退学率は急激に増えつつある。
- 5 中途退学者の 40 % は、学校生活・学業不適應を理由としている。

(注) 「文部科学省の調査」とは、平成 24 年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」(文部科学省)のことである。

問題 16 次のうち、労働契約法に規定されているものとして、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 心理的な負担の程度を把握するための検査等
- 2 労働者の安全への配慮
- 3 労働者の心の健康の保持増進のための指針
- 4 過労死等の防止のための対策に関する大綱
- 5 産業保健総合支援センターの設置

問題 17 「犯罪被害者に対する急性期心理社会支援ガイドライン」に記載されている支援者の対応に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 支援機関からの情報提供は、被害者の気持ちが落ち着くまで待つ。
- 2 記憶が鮮明なうちに、詳細に被害体験を聴き取る。
- 3 性暴力被害の場合、産婦人科の受診の必要性について確認する。
- 4 支援者は、事情聴取に付き添う際、警察に対して積極的に情報を提供する。
- 5 フラッシュバックや不眠症状があれば、精神科救急の受診を第一選択とする。

(注) 「犯罪被害者に対する急性期心理社会支援ガイドライン」とは、平成24年度厚生労働科学研究「大規模災害や犯罪被害等による精神疾患の実態把握と対応ガイドラインの作成・評価に関する研究」において作成されたものである。

問題 18 アルコール健康障害対策基本法に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 定義では、妊婦の飲酒等、不適切な飲酒の影響による心身の健康障害も規定している。
- 2 酒類の定義及び種類を規定している。
- 3 アルコール健康障害に係る専門病床の整備目標数を規定している。
- 4 飲酒に起因する危険運転致死傷罪の刑罰を規定している。
- 5 政府に対し、アルコール健康障害対策推進基本計画の策定義務を規定している。

問題 19 保健師に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 看護師国家試験に合格しなくても、保健師になることができる。
- 2 傷病者の療養上の指導を行うに当たって主治の医師又は歯科医師があるときは、その指示を受けなければならない。
- 3 「平成24年度衛生行政報告例」によると、就業場所としては、保健所が市町村よりも多い。
- 4 行政分野における保健師活動の中心は、在宅療養者とその家族の支援である。
- 5 就業地に関係なく、保健所長の指示に従わなければならない。

問題 20 WHOによるメンタルヘルスアクションプラン2013-2020に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神保健の格差に関する行動プログラム(mhGAP)を更新したものである。
- 2 世界的な目標の一つとして、精神病床をなくすことが挙げられている。
- 3 核となる原則として、Nothing about us without us(私たち抜きに私たちのことを決めるな)を挙げている。
- 4 全体的な目標として、精神障害を有する人々の死亡率・罹患率・障害の低減を挙げている。
- 5 メンタルヘルスを、ICD-10の精神及び行動の障害のないことと定義している。

精神保健福祉相談援助の基盤

問題 21 精神保健福祉士の専門技術に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 コンサルテーションとは、利用者の多様な課題を解決するために、経験の浅い精神保健福祉士に対して管理的機能の観点から助言する技術である。
- 2 ソーシャルプランニングとは、様々な福祉課題の解決を導くために、関連するデータを収集・分析し、実証的な解明を図る技術である。
- 3 ケアマネジメントとは、利用者にとって必要なケアを提供するために、最適なサービスを調整し利用者のニーズと社会資源を結びつけ、支援する技術である。
- 4 コーディネーションとは、利用者の複雑な問題を解決するために、非言語的コミュニケーションを通じて社会資源の利用を進める技術である。
- 5 スーパービジョンとは、利用者の心理的な問題を解決するために、精神保健福祉士として他分野の専門家に助言する技術である。

問題 22 精神保健福祉士の秘密保持にかかわる倫理的ジレンマに関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 精神保健福祉士法に規定された秘密保持義務があるので、ジレンマ状況を回避することができる。
- 2 クライアントが第三者への危害をほのめかした場合には、直ちに秘密保持義務は免除される。
- 3 日本精神保健福祉士協会倫理綱領に基づいて、自己決定の原則の次に秘密保持原則を優先する。
- 4 第三者の財産に被害が及ぶことが懸念されるためにケアカンファレンスを行う場合には、個人情報提供は必要最小限にとどめる。
- 5 倫理的ジレンマが生じた場合、秘密保持義務を守るため、自己の判断で対処する。

問題 23 社会福祉士及び介護福祉士法に規定されている社会福祉士に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 社会福祉士でなくなった場合には、業務に関して知り得た人の情報の開示が認められる。
- 2 環境の変化による業務内容の変化に対応するため、相談援助に関する知識及び技能の向上に努め、資格更新講習を受けなければならない。
- 3 所属する機関若しくは施設の設置目的に従って、その管理者の命令に従う誠実義務を負う。
- 4 利用者に全国統一のサービスが提供されるよう、福祉サービス関係者等との連携を保たなければならない。
- 5 専門的知識及び技術をもって、福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービス関係者等との連絡及び調整その他の援助を行う。

問題 24 ソーシャルワークの専門性に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 「ベヴァリッジ報告」(1942年)は、誕生して間もないソーシャルワークの専門性を認め、その後の理論的発展につなげた。
- 2 「シーボーム報告」(1968年)は、ケアマネジメントの導入によりソーシャルワークの専門性向上を提言した。
- 3 「ウルフェンデン報告」(1978年)は、公的サービス機関におけるソーシャルワーカーの専門性を整理し直し、その確立の必要性を提唱した。
- 4 「パークレイ報告」(1982年)は、カウンセリングとソーシャルプランニングを統合した形でのコミュニティソーシャルワーク実践を提案した。
- 5 「グリフィス報告」(1988年)は、障害者の個別の状況に応じたパーソナルアシスタンスの提供にソーシャルワーカーの新たな専門性があることを強調した。

問題 25 援助の理念に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 社会福祉法では、福祉サービスを、法の下での平等を旨として、利用者が有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるように支援するものとしている。
- 2 バイステック(Biestek, F.)は、「受容」を、建設的及び破壊的な態度や行動なども含めて、クライアントをありのままの姿で受け止めることとした。
- 3 「障害者差別解消法」は、すべての国民が障害の有無にかかわらず、等しく基本的人権を享有する個人として尊重されるものであるという理念を定めたものである。
- 4 「良質かつ適切な精神障害者に対する医療の提供を確保するための指針」では、本人の同意なく入院が行われる場合の、インフォームドコンセントを免除している。
- 5 マーゴリン(Margolin, L.)は、公民権運動に基づいて、差別や偏見により人権を損なわれている人々への援助に、エンパワメントを位置づけた。

(注) 1 「障害者差別解消法」とは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」のことである。

- 2 「良質かつ適切な精神障害者に対する医療の提供を確保するための指針」とは、2013年(平成25年)に成立した「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の一部を改正する法律」に基づき策定されたものである。

問題 26 Bさん(57歳, 男性)は, コミュニケーションが非常に苦手で, 人付き合いをする際にいつも困っている。軽度の知的障害が疑われるが診断は受けていない。幼少期から家族との関係が悪く, 家での居場所もなかった。中学卒業と同時に住み込みの仕事に就き, 家族との交流も途絶えた。住み込みの仕事は長続きせず, 職と同時に住む場所も失ってしまい, 生活困窮に陥った。窃盗をして刑務所に入り, 刑期を終えて出所するが, 身元引受人もおらず支援もなく, 窃盗を何度も繰り返し, 人生の大半を刑務所で過ごしてきた。

出所間近なBさんが社会で生活できるようにするために, Bさんの特性や生活の状況等を考えた上で社会の一員として支援を行う必要がある。

次のうち, この事例で求められる支援の理念として, 最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ソーシャルイクオリティ
- 2 ソーシャルロール・バリゼーション
- 3 ソーシャルジャスティス
- 4 ソーシャルインクルージョン
- 5 ソーシャル・コンストラクショニズム

問題 27 精神保健福祉士が行うノーマライゼーションの理念に即した活動に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 グループホームで生活する精神障害者が町内会のイベントに参加し運営を担えるよう、コーディネートを行った。
- 2 日常生活場面での会話を苦手としている精神障害者に社会生活技能訓練(SST)を行い、コミュニケーション能力の改善を図った。
- 3 雇用契約時に提示された勤務時間が守られていない事業所に対し、被雇用者である精神障害者の代わりに苦情を申し出た。
- 4 民生委員からの情報提供を受け、精神科病院への受診に結びついていないと考えられる精神障害者宅を訪問した。
- 5 金銭管理に不安のある判断能力が不十分な精神障害者に対し、日常生活自立支援事業の活用を勧めた。

問題 28 精神保健福祉における専門職等に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 保健師は、傷病者若しくはじょく婦に対する療養上の世話又は診療の補助を行うことを業とする者である。
- 2 障害者職業カウンセラーの任用要件は、社会的信望があり障害者の職業問題に理解と関心のある者である。
- 3 サービス管理責任者は、個別支援計画の策定やモニタリング等、サービス提供のプロセス全体を管理する。
- 4 精神保健福祉相談員は、その業務に従事するための試験を経て取得する免許資格である。
- 5 相談支援専門員は、サービス利用者と定期的に面接を行い、個別支援計画の策定に係る会議を開催する。

問題 29 権利擁護機能に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 対決の機能とは、当事者の置かれている環境や状況に関する問題発見、問題提起のことである。
- 2 介入の機能とは、解決困難な課題に対して、変革主体者・弁護的変革者としての役割を果たすことである。
- 3 発見の機能とは、ソーシャルワークの理念と組織・制度の問題を結びつけるために、クライアント集団が地域福祉政策を活用できるようにすることである。
- 4 調整の機能とは、利用者とサービス提供者の間で個別に行われるケースアドボカシーのことである。
- 5 変革の機能とは、制度や組織の厚い壁に対して、専門職としての中立性は保ちながらも当事者の利益のために代弁することである。

(精神保健福祉相談援助の基盤・事例問題 1)

次の事例を読んで、問題 30 から問題 32 までについて答えなさい。

[事 例]

Cさん(37歳, 男性)は, 精神的不調で苦しむことがありながらも, 何とか大学を卒業し, 旅行代理店に就職した。しかし顧客とのトラブルをきっかけに半年ほどで退職, その後精神科病院を受診し統合失調症と診断され, 半年間の入院となった。退院後は, アルバイトとして働いたが長続きせず, 病状悪化により入院, これまでに3回, 同じパターンを繰り返してきた。1年半前に退院してからは症状も安定し, 一人暮らしには慣れてきたが, 人との交流は少なく, 活動範囲は限定されていた。また過去の失敗経験から, 仕事に対する自信がなく, 今後の生活についての具体的な目標も持てずにいた。そこでCさんは, 通院した際, 担当であったD精神保健福祉士に現状を報告し, 「先が見えません。私だけ特別でしょうか。他の人はどうやって生活しているのでしょうか」と今後についての助言を求めた。(問題 30)

その後, Cさんは生活に対して前向きに考えられるようになっていった。ある日, 通院先の待合室で, 入院時に同室であったEさんから声をかけられた。Eさんは現在, ピアサポーターとして活動しており, Cさんにその内容や役割について話した上で, 「今度, ピアサポーター養成講座を受講してみない? Cさんは聞き上手だからきっとうまくいくと思うよ」と勧めた。後日Cさんは, 「自分にできるだろうか」と悩んだ末に受講を決めた。その後経験を積んだCさんは, 当事者の集まりや地域活動支援センター等で, 相談に乗ったりアドバイスをしたりする活動を行っている。

Cさんは, 久しぶりに会ったD精神保健福祉士に, 「他の人の相談に乗ることで自信がついてきましたし, 生活に張りを感じます。何よりも私自身が成長していると思います」と語った。(問題 31)

さらに, 「以前は, どこかに就職しなければと考えることが多かったのですが, 今は, ピアスタッフとして活動できるようになることが目標となりました。まだ具体的ではないですが, 近い将来, 通信課程で精神保健福祉士の資格取得に挑戦してみたいと思っています」と, 力強く笑顔で話した。(問題 32)

問題 30 次の記述のうち、この時点でのD精神保健福祉士の助言内容として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 セルフヘルプグループに参加すること。
- 2 地域障害者職業センターで職業評価を受けること。
- 3 公共職業安定所(ハローワーク)で求人情報を収集すること。
- 4 精神科デイ・ケアに通所すること。
- 5 就労移行支援事業所を利用すること。

問題 31 次のうち、Cさんの発言に関する内容として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 カウンセリング
- 2 体験的知識
- 3 アイデンティティ
- 4 パートナーシップ
- 5 ヘルパーセラピー原則

問題 32 次のうち、この事例においてCさんがたどった過程全体を表わす言葉として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 フィードバック
- 2 アカウンタビリティ
- 3 コンピテンス
- 4 メインストーリーミング
- 5 リカバリー

(精神保健福祉相談援助の基盤・事例問題 2)

次の事例を読んで、問題 33 から問題 35 までについて答えなさい。

〔事例〕

県のスクールソーシャルワーカーとして働く F 精神保健福祉士は、小学校校長から、「G 君(6 歳, 男児)をめぐって学級が混乱し授業が成り立たない」と相談を受けた。学級に入った F 精神保健福祉士は、落ち着きがなく授業中に立ち歩く児童が複数いる中で、特に G 君は刺激に反応しやすく、こだわりが強そうで、教諭の指示に従おうとするもののうまくできずいらだっていることに気づいた。教諭からの情報では G 君家庭は母子世帯で、母 H さんが学童保育を利用しながら生計を立てており、困った時には市の母子自立支援員に相談しているとのことだった。母子自立支援員は、「H さんが最近では体調を崩しがちなので子育てが心配だ」と話した。(問題 33)

F 精神保健福祉士は H さんとの面談を希望したが、H さんの勤務の関係でキャンセルが続いた。ある日、学童保育から学校に苦情があり急遽関係機関で対応を協議することとなった。学童保育指導員は G 君をめぐり児童間のトラブルを申し立て、教諭は疲弊しきった様子で指導上の困難を訴えた。母子自立支援員は、H さんのつらさを訴え、学校や学童保育の無理解を批判した。F 精神保健福祉士は、所属機関による役割の違いに理解を示した。そして、G 君や H さんが頑張っていることをそれぞれの視点で振り返るよう促し、またそれぞれのかかわり方で工夫したことや役に立ったことについて情報交換していった。その後、G 君、H さんの状況と、教諭や学童保育指導員の取組について共通した理解が得られるように働きかけた。(問題 34)

その後、F 精神保健福祉士は H さんと面談を行った。そして H さんの了解を得て、関係者が一堂に集まって G 君と H さんの今後の支援のために会議を開くことを決めた。(問題 35)

その後、学童保育では G 君が穏やかに過ごせる時間が増えてきた。学級ではボランティアが入ることで、子どもたち一人ひとりに支援の手が増え、G 君も少しずつ落ち着いてくるようになった。H さんは、今後の G 君の支援を充実させるために、より専門的な支援を受けたいと希望を話すようになった。

問題 33 次のうち、F精神保健福祉士が行っている情報収集の視点の説明として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 人と状況の全体関連性
- 2 医学的診断
- 3 多様性の尊重
- 4 利用者の自己決定
- 5 非審判的態度

問題 34 次のうち、この時点におけるF精神保健福祉士が行う機能を説明するものとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 広範なニーズへの対応
- 2 本人の解決能力の向上
- 3 連携と協働
- 4 予防的支援
- 5 個と地域の一体的支援

問題 35 次の記述のうち、この会議におけるF精神保健福祉士のかかわりとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 参加者各自の率直な気持ちや支援とその目的を話してもらう。
- 2 G君の受診の必要性を、教諭と共にHさんに説得する。
- 3 G君とトラブルになった児童との和解方法を、参加者に検討してもらう。
- 4 学校の管理職や教諭に対して、ひとり親家庭への支援について理解を促す。
- 5 Hさんの学校や学童保育への不満を代弁し、改善要求を行う。

精神保健福祉の理論と相談援助の展開

問題 36 諸外国の精神保健医療福祉政策に関する次の組み合わせのうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 イタリア ————— ケネディ大統領教書(1963年)
- 2 アメリカ ————— 法律180号(バザーリア法)(1978年)
- 3 ニュージーランド — 国民保健サービス及びコミュニティケア法(1990年)
- 4 韓国 ————— 精神保健法(1995年)
- 5 イギリス ————— ブループリント(1998年)

問題 37 次のうち、2010年(平成22年)に改正された精神保健福祉士法の第2条に新たに加えられた内容として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 社会復帰に関する相談
- 2 地域相談支援の利用に関する相談
- 3 就労支援に関する相談
- 4 虐待に関する相談
- 5 社会経済活動への参加に関する相談

問題 38 次のうち、ICIDH(国際障害分類)からICF(国際生活機能分類)への改定に際して重視された内容として、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 構成要素間の相互作用
- 2 各疾病の諸帰結
- 3 障害を個人の次元でとらえる視点
- 4 福祉的サービスの必要性
- 5 環境因子の影響

問題 39 障害者就業・生活支援センターに勤務する J 精神保健福祉士は、公共職業安定所(ハローワーク)の K 担当官から、就職を希望するうつ病の L さん(33 歳, 男性)の就労相談を依頼された。L さんは U 就労移行支援事業所を利用しているが、何度紹介しても就職に結びつかないとのことであった。J 精神保健福祉士は関係者と連携して支援することとし、L さんの意向を確認した上で、精神障害者雇用トータルサポーター、U 就労移行支援事業所の就労支援員、主治医とケアカンファレンスを行った。

次の記述のうち、J 精神保健福祉士が行うケアカンファレンスの進め方として、正しいものを 1 つ選びなさい。

- 1 それぞれの専門用語を使い、領域の違いが明らかになるようにした。
- 2 主治医から治療経過、家族構成、異性関係、財産状況を話してもらった。
- 3 共有した方針に基づいて、それぞれの専門領域における役割を明確にした。
- 4 J 精神保健福祉士の意向に沿って、それぞれが支援を行うこととした。
- 5 ケアカンファレンスの結果を K 担当官に報告し、了承を得た。

問題 40 精神科医療機関におけるリハビリテーションに関する次の記述のうち、正しいものを 1 つ選びなさい。

- 1 発病後間もない時期の患者に対しては、リハビリテーションの実施計画を作成することよりも障害年金の取得を優先させる。
- 2 入院後間もない時期の患者に対しては、リハビリテーションの開始について、本人の希望よりも客観的な必要性を優先させる。
- 3 急性症状消退後間もない患者に対しては、時間を限定した個人プログラムよりも多人数が参加する決められたプログラムに参加することを優先させる。
- 4 精神療養病棟に入院中の患者に対しては、就労移行のためのプログラムよりも日常生活の質の改善へ向けたプログラムを優先させる。
- 5 施設症(institutionalism)の状態の患者に対しては、リハビリテーションよりも向精神薬による薬物療法を優先させる。

問題 41 精神科デイ・ケアの進め方に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 擬似的な社会経験による回復を目指しているので、個別の対応は控えて集団場面に集中できるようにする。
- 2 グループの凝集性を高めてメンバーの仲間意識を形成することで、永続的なグループ活動を目指す。
- 3 退院促進・地域移行の機能を強化するため、入院後速やかに参加を促しプログラムを開始する。
- 4 メンバーの社会関係の広がりを目指し、地域資源の活用を視野に入れた支援を展開する。
- 5 地域における生活環境を整備するため、精神保健医療福祉施策の改善に向けた意見集約を行う。

問題 42 次の記述のうち、精神保健福祉士が行うソーシャルワークの展開として、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 インテークでは、援助についての契約を結ぶ。
- 2 アセスメントでは、ニーズを明確にするための評価を行う。
- 3 プランニングでは、精神疾患別に区分することを優先する。
- 4 インターベンションでは、課題の達成状況を振り返る。
- 5 モニタリングでは、相談援助活動の効果を最終的に評価する。

問題 43 精神保健福祉士が行う面接技法に関する次の組み合わせのうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 要約(summarization) —— 利用者のはっきりしない考えや感情を言葉で表現する。
- 2 言い換え(paraphrase) —— 利用者の話に関心をもって聴いていることを伝える。
- 3 直面化(confrontation) —— 利用者が話した内容の矛盾点を見定めて指摘する。
- 4 励まし(encouraging) —— 利用者が述べた内容を、簡潔に別の言葉を使って返す。
- 5 明確化(clarification) —— 利用者が語る内容や気持ちを整理してまとめる。

問題 44 ある朝、デイケアメンバーのMさん、Aさんの二人がスタッフルームを訪れ、「昨日、全体ミーティングの時、みんなで遊園地に行こうと提案したら、Bさんたちが遊びの計画はダメだと言った。僕たちの意見に賛成した人たちもBさんの迫力に負けたみたいで何も言えなかった。そんなミーティングだったら僕たちはもう出ません」とC精神保健福祉士に話した。C精神保健福祉士は、「そうでしたね。昨日は時間の制約があって十分に意見交換ができませんでしたね。次回の全体ミーティングで、もう一度お二人の提案の趣旨を話し、その上でBさんたちの意見も聞いてみましょうよ」と話した。

次のうち、C精神保健福祉士が次回の全体ミーティングで用いるグループワークの原則として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 参加の原則
- 2 個別化の原則
- 3 制限の原則
- 4 葛藤解決の原則
- 5 受容の原則

問題 45 D精神保健福祉士は、精神科医療機関に入職以来、精神療養病棟に4年間勤務し、統合失調症の患者を担当していた。今回、デイ・ケア部門に異動し、特にうつ病患者の復職支援を中心とした業務を担うこととなった。異動後、うつ病への支援と早期復職を求める企業側の意向との調整で、様々な悩みや不安を抱えることとなり、上司のE精神保健福祉士(経験20年)に相談した。

次の記述のうち、この相談を受けたE精神保健福祉士がD精神保健福祉士を支えるために企画したスーパービジョンとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 社会人として果たさなければならない責務について研修を受けさせる。
- 2 復職先企業側の職員を含めたグループスーパービジョンを実施する。
- 3 同期の職員でのピアスーパービジョンを実施する。
- 4 同期の精神保健福祉士によるライブスーパービジョンを実施する。
- 5 置かれている状況や課題の言語化を通して整理できるようにさせる。

問題 46 包括型地域生活支援プログラム(ACT)に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 就労支援は、利用1年後を目安として開始する。
- 2 危機介入、リハビリテーション、家族支援などのサービスがある。
- 3 精神保健福祉士は生活支援を担当するなど、職種ごとの役割を明確にする。
- 4 チームスタッフ一人当たりの対象者数は、10～12名程度までとされている。
- 5 生活能力や症状に関係なく、本人の希望があれば利用対象とする。

問題 47 地域活動支援センターに勤務するF精神保健福祉士は、近隣にある小学校の教諭から、「総合的な学習の時間」を使って精神保健福祉を学習の題材にした福祉教育の授業を実施してほしいとの依頼を受けた。対象学年は6年生である。さっそくF精神保健福祉士は、小学校の教諭、地域活動支援センターの利用者、同僚の精神保健福祉士たちと話し合いの場をもち、授業の目的や内容について協議した。その結果、講義形式だけでなく、体験型の授業を取り入れることにした。

次の記述のうち、この福祉教育で実施する体験型の授業として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 児童が精神科病院へ出向いてコーラスを披露する。
- 2 児童に統合失調症の症状の疑似体験をさせる。
- 3 児童と精神障害者でソフトバレーボールの練習をする。
- 4 児童が応援メッセージの手紙を送る。
- 5 児童が昼食に手作り弁当を提供する。

問題 48 地域ネットワークに関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 フォーマルな社会資源やインフォーマルな社会資源で重層的に形成される。
- 2 地域福祉計画を策定することが義務づけられている。
- 3 形成されたネットワークは変更なく維持される。
- 4 小学校区を単位とした小地域ネットワーク活動を基本とする。
- 5 地域住民の精神保健福祉への関心を高める。

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 1)

次の事例を読んで、問題 49 から問題 51 までについて答えなさい。

[事 例]

Gさん(33歳、女性)は、飲酒しては当たり散らす父親と、夫の顔色ばかり見てGさんには過干渉な母親に育てられ、高校卒業後、実家を離れるためあえて遠方に就職した。23歳で結婚したが、夫の女性関係がもとで27歳で離婚した。Gさんはその憤りやむなしさから深酒するようになった。そんな時、両親を早く亡くしたHさんから、「子どものいる温かい家庭を作ろう」とプロポーズされ、29歳で再婚し、仕事を辞めた。31歳の時に長男が生まれたが、Gさんは育児に追われる中で世間から取り残されたように感じ、寂しさから妊娠中は控えていた飲酒を再開した。次第に昼間から飲酒するようになり、夕食の支度ができないことが多くなった。Hさんは、「育児が大切な時に飲酒するのは母親失格」などとGさんを強く責めた。Gさんはきつく言われることが飲酒の原因と言い、Hさんのクレジットカードを使いインターネットで酒を購入して飲酒を続けた。Hさんは、妻がやり残した長男の世話や家事を代わって行い、何とかやりくりしてきたが、Gさんの飲酒行動に対してはどう対応すればよいか分からず、困った末に、市のJ精神保健福祉士に相談した。(問題 49)

数日後、長男が1歳半健診を受診しなかったことから、保健師が家庭を訪問した。Gさんは息苦しかった実家での生活、家事や育児の負担、夫に言われるまま退職したことの後悔、夫が子どものことばかり心配し自分には批判的な態度をとることへの不満、こうした状況を酒で紛らわせていることのつらさなどを語った。また、「こんな状況では飲酒はやめたくてもやめられない」「最近はその手の震えや動悸が生じるので、夫が出勤したらすぐ飲み始める」などと話した。保健師から連絡を受けたJ精神保健福祉士は、Gさん、Hさんに会って悩みを十分に傾聴した上で、Gさんがとるべき改善策について提案した。(問題 50)

GさんはJ精神保健福祉士の提案を受け入れる意向を示し、Hさんも了解した。またその際、Gさんが回復するまでの育児についてHさんが不安を訴えたため、J精神保健福祉士はその間の育児についても提案を行った。(問題 51)

問題 49 次の記述のうち、J精神保健福祉士がHさんの相談を受けて提案した内容として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Hさん名義のクレジットカードで酒を購入できないようにしてください。
- 2 飲酒許容量を話し合っただけで、その範囲ならGさんを責めないでください。
- 3 時々職場からGさんに電話して、飲酒していないか確認してください。
- 4 帰宅時にGさんが飲酒していたら、直ちに酒を取り上げてください。
- 5 Gさんが飲まなくて済むよう、育児や家事をもっと手伝ってあげてください。

問題 50 次の記述のうち、J精神保健福祉士がGさんに提案した内容として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 育児不安を解消させるために、育児中の母親のグループに参加する。
- 2 夫婦が相互に理解し合うために、夫婦カウンセリングを受ける。
- 3 飲酒行動をやめさせるために、専門医療機関を受診する。
- 4 過去の家族関係について洞察を得るために、精神分析療法を受ける。
- 5 ストレス発散のために、Hさんに協力してもらい外出する機会を増やす。

問題 51 次の記述のうち、J精神保健福祉士がHさんに提案した内容として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Hさんが会社を退職し、長男の育児とGさんの世話をする。
- 2 Gさんが回復するまで母親に来てもらい、長男の育児に協力してもらう。
- 3 Gさんが回復するまで長男を乳児院に入院させる。
- 4 Hさんが勤務中は、長男を保育所に預ける。
- 5 Hさんが勤務中は、母子家庭等日常生活支援事業を利用する。

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 2)

次の事例を読んで、問題 52 から問題 54 までについて答えなさい。

[事 例]

Kさん(25歳, 女性)は, 高校卒業と同時に就職したが, 仕事が合わないという理由ですぐに退職した。その後, Kさんは専門学校に通い, 情報処理の資格を取得して再就職を目指した。しかし, パソコン技術の高さを買われて採用はされたものの, 要領の悪さや配慮のなさを度々指摘され, 職場の人間関係もうまくいかなくなり離職した。Kさんは次第に被害的になり, 抑うつ感と不眠に悩む日々が続いたため精神科クリニックを受診したところ, 広汎性発達障害でうつ状態と診断された。診断内容を聞いて不安になったKさんは, 「これから自分はどうしたらいいのか」「もう働けないのか」と医師に訴えたため, 近隣のV就労移行支援事業所(以下「V事業所」という。)を紹介され, L精神保健福祉士が担当することになった。L精神保健福祉士との初回面接の際, Kさんは, 「自分は頑張って働いているのにいつも注意ばかりされる」と暗い表情で話した。(問題 52)

KさんはV事業所の利用を開始し, パソコン技術をいかして印刷作業プログラムで編集を担当することになった。Kさんはパソコン操作に集中して取り組む一方, 簡単な指示を誤解し, 他の利用者がそばで重い荷物を運んでいても手伝うことはなく, 挨拶もほとんどしていなかった。L精神保健福祉士はKさんの作業場面の課題を整理し, スタッフミーティングでKさんへの支援内容を決めた。(問題 53)

V事業所を利用して半年が経過し, Kさんは印刷製本を営むW会社で職場実習を行うことになった。W会社の担当者, Kさん, L精神保健福祉士の三者で話し合い, まずはKさんが簡単な梱包作業から始められるようにし, 状況を見て調整を図ることにした。実習を開始して数日後, L精神保健福祉士が職場を訪問すると, Kさんは仕事の手順や指示が分からず戸惑っている様子が見受けられた。そして, その日の帰り際にKさんは, 「私にわざと難しい仕事をさせている」とL精神保健福祉士に訴えてきた。そこで, L精神保健福祉士はW会社の担当者に対する働きかけを考えた。(問題 54)

問題 52 次の記述のうち、この時点でのL精神保健福祉士のKさんへの対応として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 就労に向けてKさんが利用可能な制度の概要を説明した。
- 2 職場で注意された内容を踏まえてKさんの問題点を確認した。
- 3 障害特性に留意しつつKさんの意向や考えを聞いた。
- 4 障害者雇用制度を活用した支援計画を立てた。
- 5 就労に向けて生活リズムを身につける必要性を伝えた。

問題 53 次の記述のうち、Kさんへの支援内容として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Kさんが飽きずに作業に取り組めるように、多様な作業メニューを用意し日替わりで提供する。
- 2 職場のマナーやルールを、ロールプレイで具体的に学習できる場を設定する。
- 3 1日の活動終了時にKさんがうまくできなかったことを振り返り、自分で改善点を考えるように促す。
- 4 パソコン操作による作業時間を段階的に増やし、Kさんのパソコン技能を更に向上させる。
- 5 Kさんに注意する際は、本人の気持ちを傷つけないように直接的な表現は控える。

問題 54 次の記述のうち、この時点でのL精神保健福祉士のW会社の担当者に対する働きかけとして、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 なるべく多くの従業員が、適宜Kさんに指示を与えるように助言する。
- 2 仕事の手順表を作成し、Kさんが見える場所に貼ってもらうように依頼する。
- 3 実習を一時中断し、V事業所でKさんの課題を改善後、再開することを提案する。
- 4 職場の厳しさを知る良い機会なので、このまま見守ってほしいと要望する。
- 5 Kさんが得意なパソコンを活用した仕事が設定できないか相談する。

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 3)

次の事例を読んで、問題 55 から問題 57 までについて答えなさい。

[事 例]

Mさん(73歳、女性)のことでA民生委員が、保健所に勤務しているB精神保健福祉相談員のもとに相談に訪れた。Mさんは夫と共に商店街の一角で米屋を営んでいたが、2年前に夫を亡くし、米屋を廃業した。その後、一人暮らしをしていたが、約半年前から、物忘れがみられ始めた。連絡を受けた長女が同行し専門医を受診したところ、軽度のアルツハイマー型認知症と診断された。長女は義父の介護があり同居できないため、Mさんは単身生活を続けていたが、一週間前、外出したまま家に帰れなくなり警察に保護された。長年、Mさん夫婦と一緒に商店街活動をしてきた住民たちは、とても心配しているとのことであった。さっそくB精神保健福祉相談員は自宅を訪問した。Mさんは、「生活の中で困っていることは特になし、まだ誰かの世話にならなくても大丈夫です」と話した。また、「時々、泥棒に入られて物が盗られるんです。でも、いつもAさんに一緒に探してもらおうと見つかりますよ」とも言う。その話を聞いたB精神保健福祉相談員は、定期的に訪問をすることとした。(問題 55)

訪問終了後、A民生委員や、同じ商店街に住むMさんを心配する住民のところへ立ち寄り、話を聞いた。(問題 56)

その後Mさんは、再度、外出したまま行方不明になった。再び警察に保護されたこともあって、Mさんは長女に伴われて保健所を訪れた。そこで、B精神保健福祉相談員は、Mさん、長女、A民生委員、心配している住民たちと話合いの場をもった。長女は施設入所を希望したが、Mさんは自宅での生活を続けたいと強く希望した。住民らは、火の不始末による火災が心配だと言った。B精神保健福祉相談員はMさんへの個別的な支援を展開することと併せて、A民生委員をはじめとする住民たちによる支えや、不足している地域資源を新たに創り出すなど、Mさんを支える生活環境の整備も展開することを提案した。(問題 57)

問題 55 次のうち、B精神保健福祉相談員の行う定期的訪問の目的として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 自立生活訓練
- 2 支援計画の作成
- 3 入院援助
- 4 家事援助
- 5 経過観察・見守り

問題 56 次のうち、この時点でのB精神保健福祉相談員の援助プロセスとして、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 アセスメント
- 2 プランニング
- 3 インターベンション
- 4 モニタリング
- 5 エバリュエーション

問題 57 次のうち、B精神保健福祉相談員が提案した支援の方法として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 コミュニティソーシャルワーク
- 2 コミュニティディベロップメント
- 3 コミュニティビジネス
- 4 コミュニティオーガニゼーション
- 5 コミュニティベースドリハビリテーション

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 4)

次の事例を読んで、問題 58 から問題 60 までについて答えなさい。

[事 例]

Cさん(61歳、男性)は、6人きょうだいの末っ子として生まれた。小中学校時代は、口数が少なくおとなしい性格だったが、イライラすると店で万引きをしてしまう盗癖があり、何度か警察に補導されたこともあった。中学卒業後に就職するが、仕事は長続きせず、転職を繰り返していた。母親が死亡し、父親と二人暮らしになったことから、父親が勤務する工務店で一緒に働くようになり、何とか辞めずに勤めていた。しかし、幼少期からの盗癖は改善されず、25歳の時、執行猶予中に万引きで逮捕され、初めて刑務所に服役する。それ以後同様の行為で4回服役している。

Cさんが57歳の時、父親が死亡した。そのころから仕事に行かなくなり、また万引きをして逮捕され、懲役2年の実刑で5回目の服役となった。服役中に息苦しさや手足のしびれを訴え不穏になるなどして、刑務所の矯正医官より、知的障害とパニック障害と診断され投薬を受けた。きょうだい全員が出所後の受け入れや今後のかかわりを拒否していることから、刑務所のD福祉専門官が支援を開始した。(問題 58)

出所が近づき、知的障害もあることから、地域の支援機関につなぐことにした。Cさんの出所に向けてX地域生活定着支援センターのE精神保健福祉士が支援することになった。(問題 59)

E精神保健福祉士の支援により、出所と同時に生活保護を受給してアパートに住み、Y精神科病院に通院することになった。しかし、服薬がうまくコントロールできず、パニック障害の症状が頻発し、イライラ・不穏も強まり、通院先に任意入院することになった。入院後、規則正しい服薬により安定した。本人が退院したいと口にするようになったので、Y精神科病院のF精神保健福祉士が退院に向けて具体的な支援を開始した。(問題 60)

問題 58 次の記述のうち、この時点でのD福祉専門官の支援として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 通院処遇の申立てのため、「医療観察法」の説明を行う。
- 2 出所後の生活安定のため、指定特定相談支援事業者の説明を行う。
- 3 疾患の治療を優先するため、精神科病院の説明を行う。
- 4 精神保健観察の開始のため、社会復帰調整官の説明を行う。
- 5 犯した罪に対して反省するため、^{きょうかいし}教誨師の説明を行う。

(注) 「医療観察法」とは、「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」のことである。

問題 59 次の記述のうち、E精神保健福祉士が行う支援の手続きとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 裁判所の指示を受けて行う。
- 2 保護観察所の依頼を受けて行う。
- 3 D福祉専門官の指導を受けて行う。
- 4 きょうだいの同意を得て行う。
- 5 警察署の許可を得て行う。

問題 60 次のうち、F精神保健福祉士が退院支援を行う上で、Cさんに提案した社会資源として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 保護観察所
- 2 地域包括支援センター
- 3 グループホーム
- 4 更生保護施設
- 5 精神保健福祉センター

精神保健福祉に関する制度とサービス

問題 61 措置入院にかかわる手続きに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 診察では、自傷他害のおそれについて、特定医師が判定する。
- 2 精神障害者又はその疑いのある者を知った者は、誰でも診察及び必要な保護を所管する市町村長に申請することができる。
- 3 警察官は、自傷他害のおそれがある精神障害者を保護したとき、直ちに、精神科病院に搬送することが義務づけられている。
- 4 検察官は、精神障害者又はその疑いのある被疑者や被告人について、不起訴処分又は裁判が確定したとき、市町村長に通報しなければならない。
- 5 都道府県知事は、現に本人の保護の任に当たっている者がある場合には、あらかじめ診察の日時及び場所を、その者に通知しなければならない。

問題 62 退院後生活環境相談員に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 措置入院者を担当する。
- 2 精神科病院を所管する都道府県知事が配置義務を負う。
- 3 退院後からかかわり、生活環境を調整する。
- 4 担当する患者数の目安が決められている。
- 5 退院後7日以内に選任される。

問題 63 1993年(平成5年)に改正された障害者基本法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 国際障害者年の理念を実現するために改正された。
- 2 精神衛生法も精神保健法に改正された。
- 3 障がい者制度改革推進本部が設置された。
- 4 精神障害者保健福祉手帳が規定された。
- 5 福祉サービスの窓口が市町村になった。

問題 64 Gさん(40歳, 男性)は企業で働くサラリーマンである。家族関係でのトラブルをきっかけに精神的に不調となり、精神科を受診し、うつ病と診断された。Gさんはしばらく自宅療養を行っていたが、病状は改善せず、心配した家族と共に再受診し、入院となった。医師からは2か月の入院加療が必要であると診断された。しかし、Gさんは、「会社休業中は給料が出ない」と訴えたため、担当となったH精神保健福祉士は病氣療養中の生活保障のための経済的な相談に乗ることになった。

次のうち、H精神保健福祉士がGさんに紹介した制度として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 自立支援医療
- 2 特別障害給付金
- 3 特定求職者雇用開発助成金
- 4 障害手当金
- 5 傷病手当金

問題 65 生活保護制度に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 家族と同居している場合、個人を単位とすることを原則とする。
- 2 在宅生活をする場合、生活保護か障害年金かの、いずれかを選択できる。
- 3 居住地と異なる市の精神科病院に通院する場合、当該病院を管轄する福祉事務所が、保護の決定・実施を行う。
- 4 精神障害者が申請する場合、資力調査は免除される。
- 5 1級あるいは2級の精神障害者保健福祉手帳を取得している場合、障害者加算がある。

問題 66 次のうち、都道府県が設置する保健所の精神保健福祉業務として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神障害者保健福祉手帳の申請受理
- 2 自助グループの組織育成、活動支援
- 3 精神医療審査会の審査に関する事務
- 4 診療報酬上の精神科デイ・ケアの実施
- 5 日常生活自立支援事業の実施

問題 67 精神障害者を対象とする施設等に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神病者監護法により、救護施設が法定化された。
- 2 精神衛生法により、精神障害者地域生活支援センターが法定化された。
- 3 精神保健法により、精神障害者社会復帰施設が法定化された。
- 4 「精神保健福祉法」により、障害者就業・生活支援センターが法定化された。
- 5 障害者自立支援法により、精神障害者地域生活援助事業が法定化された。

(注) 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。

問題 68 大企業に勤務する営業職のJさん(45歳、男性)は、大学卒業後、仕事の付き合いでほぼ毎日深夜まで飲酒するという生活をずっと続けてきた。しかしこの1年で、前夜の記憶を失くすことが増え、接待の席でも酔って失敗するようになった。その度に陳謝し、酒量を控えると宣言するもうまくいかず、とうとう得意先を失いかけるという事態に至った。Jさんは、上司からの勧めで、産業医の診察を受け、アルコール依存症と診断され、病気の存在とその特徴について説明を受けた。そして、企業内のK精神保健福祉士から専門医療機関や自助グループへの参加の意義の説明と紹介を受けた。

次のうち、Jさんに紹介した資源として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 アラノン(AI-Anon)
- 2 アルコホーリクス・アノニマス(AA)
- 3 ナルコティクス・アノニマス(NA)
- 4 断酒会(全断連)
- 5 ダルク(DARC)

問題 69 「医療観察法」の処遇内容に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 入院処遇は、急性期、回復期、終結期の3段階に分けられる。
- 2 通院処遇は、指定通院医療機関で行われ、その期間は1年6か月である。
- 3 指定入院医療機関の管理者は、入院の継続が必要と認めた場合、地方裁判所に入院継続の確認の申立てをしなければならない。
- 4 処遇内容に不服がある場合、精神医療審査会に処遇改善請求ができる。
- 5 審判における処遇決定に対し、行政不服審査法に基づく審査請求ができる。

(注) 「医療観察法」とは、「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」のことである。

(精神保健福祉に関する制度とサービス・事例問題)

次の事例を読んで、問題 70 から問題 72 までについて答えなさい。

[事 例]

Web デザイン会社に勤める L さん(30 歳, 女性)は, 結婚を前提に交際している M さん(35 歳, 男性)に誘われて覚せい剤を使い始めた。L さんは覚せい剤使用について本当は嫌だったが, M さんに嫌われるのが怖くて断りきれなかった。その後同居を始めると, M さんは些細なことで L さんに暴力を振るうようになった。ある日の夜中, M さんの怒声を聞いた近隣住民が警察に通報し, 二人とも逮捕された。M さんは刑事施設へ行くことになった。L さんは保護観察付執行猶予判決を受け, 本人の希望によりあるプログラムを受けることになった。(問題 70)

L さんは実家に戻って平穏な生活を送っていたが, 数年後に, 出所してきた M さんと街で偶然再会し, 時々会うようになった。両親は交際を反対したが, 一緒に覚せい剤を使って再逮捕されるに至った。今回は L さんも実刑判決を受け, 刑事施設に入所することとなった。その後, 少し気持ちが落ち着き, L さんは出所したらいったん自宅に戻って, 蓄えていた 100 万円を基にネットショップを始めたいと考えていた。しかし, 仮釈放のことが気になり始めたころに, 身元引受人になってほしいと両親に手紙で打診したところ, M さんとの交際をやめるようにとの忠告に逆らった L さんを信用することができないと, 同意を得ることができず, 仮釈放の許可決定が得られなかった。刑期を終えた L さんは, すぐにある施設に入所した。(問題 71)

その後 L さんは, 施設を退所してアパートを借り, そこで Web デザインの仕事を始めた。覚せい剤とは手を切り, 作業に明け暮れる日々を送っていたが, 時々他人の視線が気になるようになった。また, 「もう使わない」と固く決心をしていたにもかかわらず, ふとした時に, 無性に覚せい剤を使いたいと思うこともあった。不安になった L さんは, インターネットで情報を集め, 自分は薬物依存症かもしれないと思い始めた。万一にも入院ということになるのは嫌なので, 病院ではなく, 近くの保健所を訪れ, A 精神保健福祉相談員による面接を受けた。(問題 72)

問題 70 次のうち、この時点でLさんが受けることになったプログラムとして、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 しょく罪指導プログラム
- 2 覚せい剤事犯者処遇プログラム
- 3 自立支援プログラム
- 4 職業能力形成プログラム
- 5 暴力防止プログラム

問題 71 次のうち、この時点でLさんがまず利用した入所施設として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 更生保護施設
- 2 地域生活定着支援センター
- 3 社会復帰促進センター
- 4 救護施設
- 5 自立更生促進センター

問題 72 次の記述のうち、この時点でのA精神保健福祉相談員の対応として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 保護観察を受けたことがあるので、保護観察所に連絡する。
- 2 保健所で定期的に行われている精神保健に関する相談を利用することを勧める。
- 3 覚せい剤は違法薬物なので、警察に通報する。
- 4 断薬継続に向けた自助グループについての情報を提供する。
- 5 薬物依存症が疑われるため、緊急措置入院の手続きをとる。

精神障害者の生活支援システム

問題 73 精神障害の特性に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 疾患が固定化することによって、障害へと移行する。
- 2 仲間同士の交流は、日々の生活の対処能力を高めることにつながる。
- 3 活動範囲の拡大は、疾患へ負の影響を与えることが多い。
- 4 新しい事柄に取り組みづらいのは、パターンリズムという特性によるものである。
- 5 様々な場面への活動や参加は、健康状態の向上へと導くことになる。

問題 74 Bさん(48歳, 男性)は、Z精神科病院での25年間の入院生活を経て、アパートで単身生活を開始した。そのような中、地域のごみステーションに、不燃物を出す日を間違っていたことについて、近所の人から注意を受けた。以来、Bさんはごみを出すことが不安になり、Z精神科病院のC精神保健福祉士に相談した。

次の記述のうち、C精神保健福祉士のかかわりとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 地域生活の中では、ごみ出しのことは些細なことにすぎないので、そのようなことを気にする必要はないと慰めた。
- 2 Bさんが気にするあまり、病状が再燃してはいけなないと考え、近所の人ところに、C精神保健福祉士が単独で謝罪に行った。
- 3 失敗体験が続くことによって自信を喪失してしまわないようにと、生活予定表を作って管理し、その結果を報告させるようにした。
- 4 近所の人との良好な関係を構築することの大切さを伝え、どのように対応するかをBさんと一緒に考えることにした。
- 5 Bさんからホームヘルパーの希望が聞かれたが、他者に頼ることは継続的な暮らしを考えれば、自立の妨げになることを伝えた。

問題 75 「障害者総合支援法」に基づく共同生活援助(グループホーム)に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 希望する者は、入居前に体験的な利用ができる。
- 2 入所施設又は病院の敷地内にある。
- 3 利用期間は、最長で6か月である。
- 4 サテライト型住居も認められている。
- 5 利用者は、主として昼間において日常生活上の援助を受ける。

(注) 「障害者総合支援法」とは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」のことである。

問題 76 「障害者総合支援法」に基づく市町村が設置する協議会(市町村協議会)に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 障害支援区分の審査、判定を行う。
- 2 インフォーマルな社会支援も含めた支援体制の整備を検討する。
- 3 個別事例の支援のあり方について協議する。
- 4 地域移行支援の対象者を決定する。
- 5 総合的・専門的な相談支援を実施する。

問題 77 精神保健福祉にかかわる行政機関の機能と役割に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 市町村は、保健所と比較して受療支援など未治療者への対応や支援の比率は高く、日常生活支援や福祉サービス利用に係る業務の比率は低い。
- 2 保健所は、地域における精神保健福祉の第一線の行政機関として、障害福祉サービスの提供を行う。
- 3 精神保健福祉センターは、調査研究、普及啓発、自立支援医療及び障害年金の審査、判定を行う。
- 4 市町村長は、医療保護入院の必要がある際、家族が同意を拒否している場合は、自らが同意を行うことができる。
- 5 都道府県知事は、精神科病院の实地指導を業務の一つとして行う。

(精神障害者の生活支援システム・事例問題)

次の事例を読んで、問題 78 から問題 80 までについて答えなさい。

[事 例]

Dさん(28歳, 男性)は, 元来穏やかな性格の持ち主で, 大学を卒業後, 5年間地元のデパートに勤め, 働くことが生きがいと感じていた。ところが, 交通事故で頭を強打し, 総合病院の脳外科に入院した。数日で意識は回復したが, 以後根気が続かず, また急に怒り出すなど人が変わったようになり, 高次脳機能障害と診断された。退院し復職したが, 約束を忘れたり, 客とけんかになったり, また勤務中に失禁することがあり, 2か月後に退職した。

しばらくしてDさんは, 入院中から相談を継続していたE精神保健福祉士に, 「社会保険がついたところで働きたい」と希望した。E精神保健福祉士は, Uワークを紹介し, Dさんはそこで働き始めた。(問題 78)

Dさんは, 働き始めた当初, 他の利用者とトラブルになったこともあったが, 慣れてくると, 徐々に周囲から信頼を得られるようになった。ちなみに, Uワークでは, 一般就労へ多くの人たちが移行していた。そのような中, UワークのF精神保健福祉士は, 取引先のVスーパーマーケット(以下「Vスーパー」という。)へ, 意識的にDさんと共に, 商品を持参する機会を増やした。Vスーパーには, 80名の従業員が雇用されている。F精神保健福祉士はハローワークの担当者と共に, Vスーパーの社長に, 障害者雇用を打診した。社長はF精神保健福祉士に対して, Dさんをはじめ, 7, 8名の障害者を雇用したいと意欲的に語った。そこで, F精神保健福祉士はVスーパーの経済的負担の軽減を図ることができる給付金を紹介した。(問題 79)

その後, DさんはVスーパーの面接を受け, 採用が決まったものの, 不安感を抱いていた。それはDさんが, デパートに復職したころの客とのけんか等がトラウマになっていたからである。そこで, F精神保健福祉士は, 就職後のフォローアップをすることにした。(問題 80)

問題 78 次のうち、Uワークの事業として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 就労継続支援A型
- 2 就労継続支援B型
- 3 地域活動支援センター
- 4 就労移行支援
- 5 自立訓練

問題 79 次のうち、Vスーパーに対して、F精神保健福祉士が紹介した給付金として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 障害者雇用納付金
- 2 障害者雇用調整金
- 3 報奨金
- 4 中小企業障害者多数雇用施設設置等助成金
- 5 精神障害者等雇用安定奨励金

問題 80 次の記述のうち、Dさんに対するF精神保健福祉士のかかわりとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Dさんが職場において、課題に直面することを待ってから対応する。
- 2 Vスーパーを支援の場として用いずに対応する。
- 3 期限を定めず家庭訪問を頻回に実施する。
- 4 同じように就労移行した人たちと、交流する機会を設定する。
- 5 Dさんが今後Uワークに立ち寄らないことを確認する。